

発行日	2016年12月1日
改訂日	

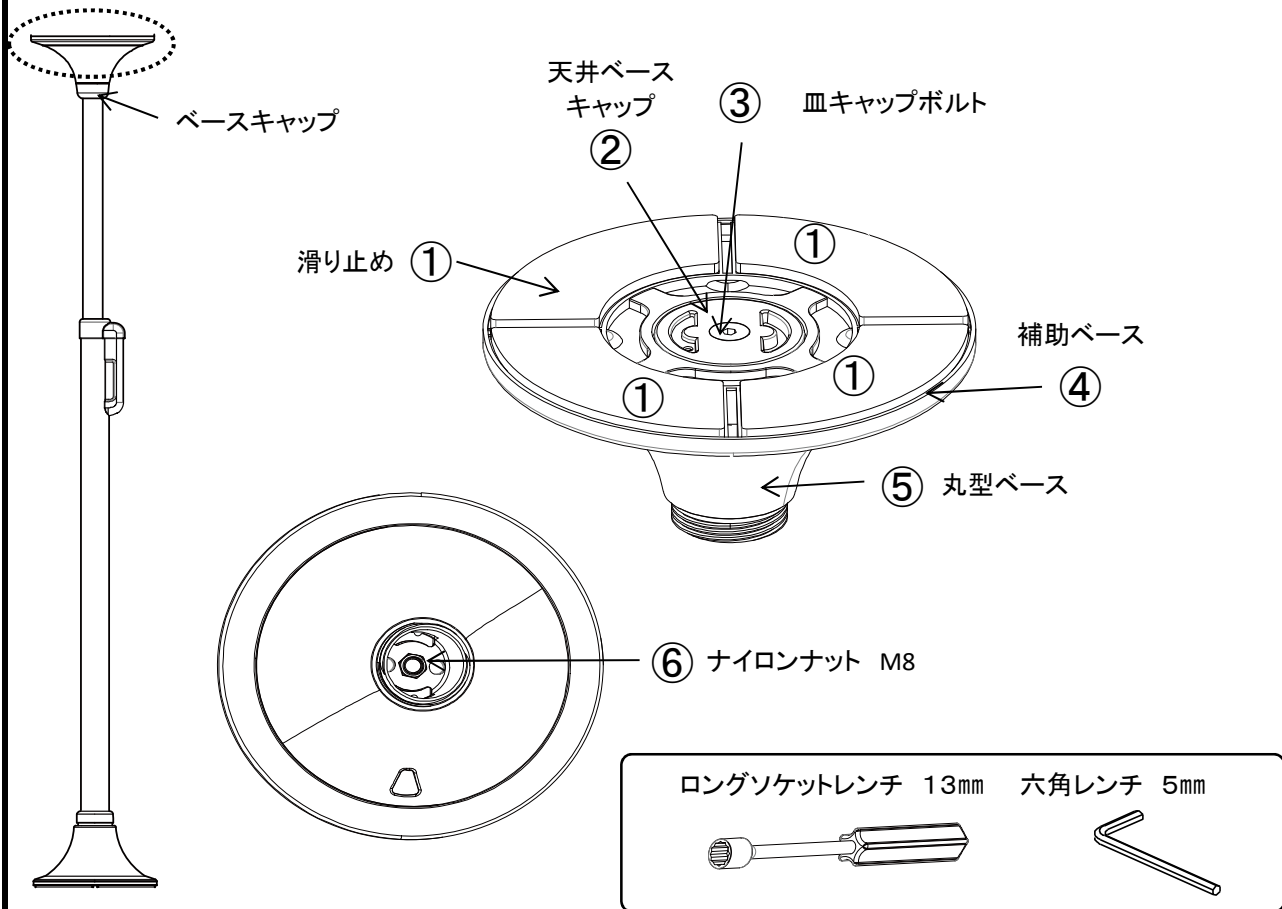
点検マニュアル



天井丸型ベース点検マニュアル

発行日 2016年12月1日

改訂日

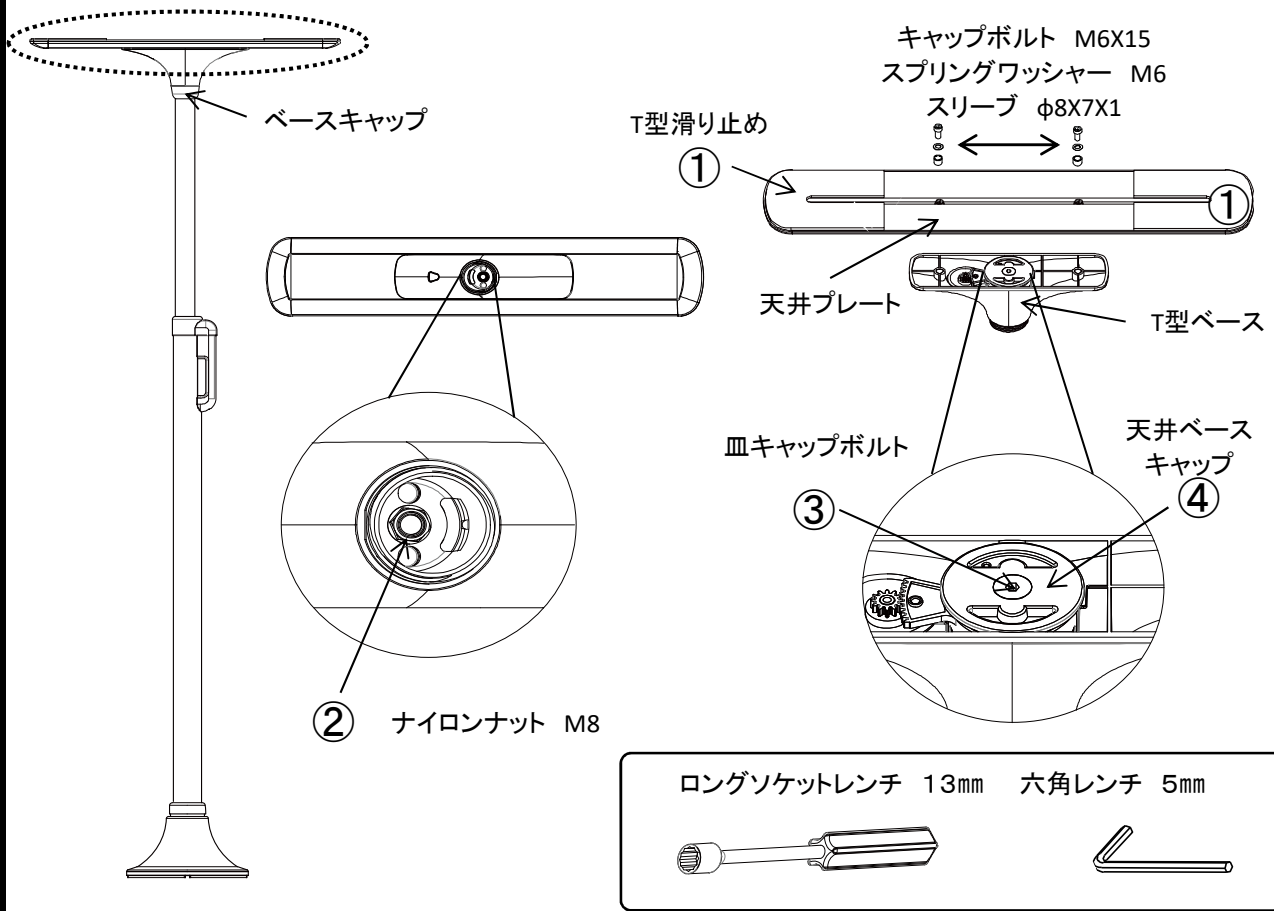


点検項目	点検方法	点検内容	判断基準
①滑り止め	目視	貼り位置の確認 劣化確認 汚れ、付着物は除去	大きくズれていないこと 傷、へたりのないこと 消耗品は早めに交換
③皿キャップボルト	作業実施	締まりの確認 六角レンチ 5mm	空回りしないこと
		空回りする場合の対策(締めすぎ注意) 丸ベースの⑥ナイロンナットをロングソケットレンチ13mm等で固定し、③皿キャップボルトを締め付固定する。	
④補助ベース	触診	回らないことを確認	グラつくが回転しないこと 回転する→修理依頼
外観	目視	全体を目視する	変形していないこと 割れ等ないこと

天井T型ベース点検マニュアル

発行日 2016年12月1日

改訂日

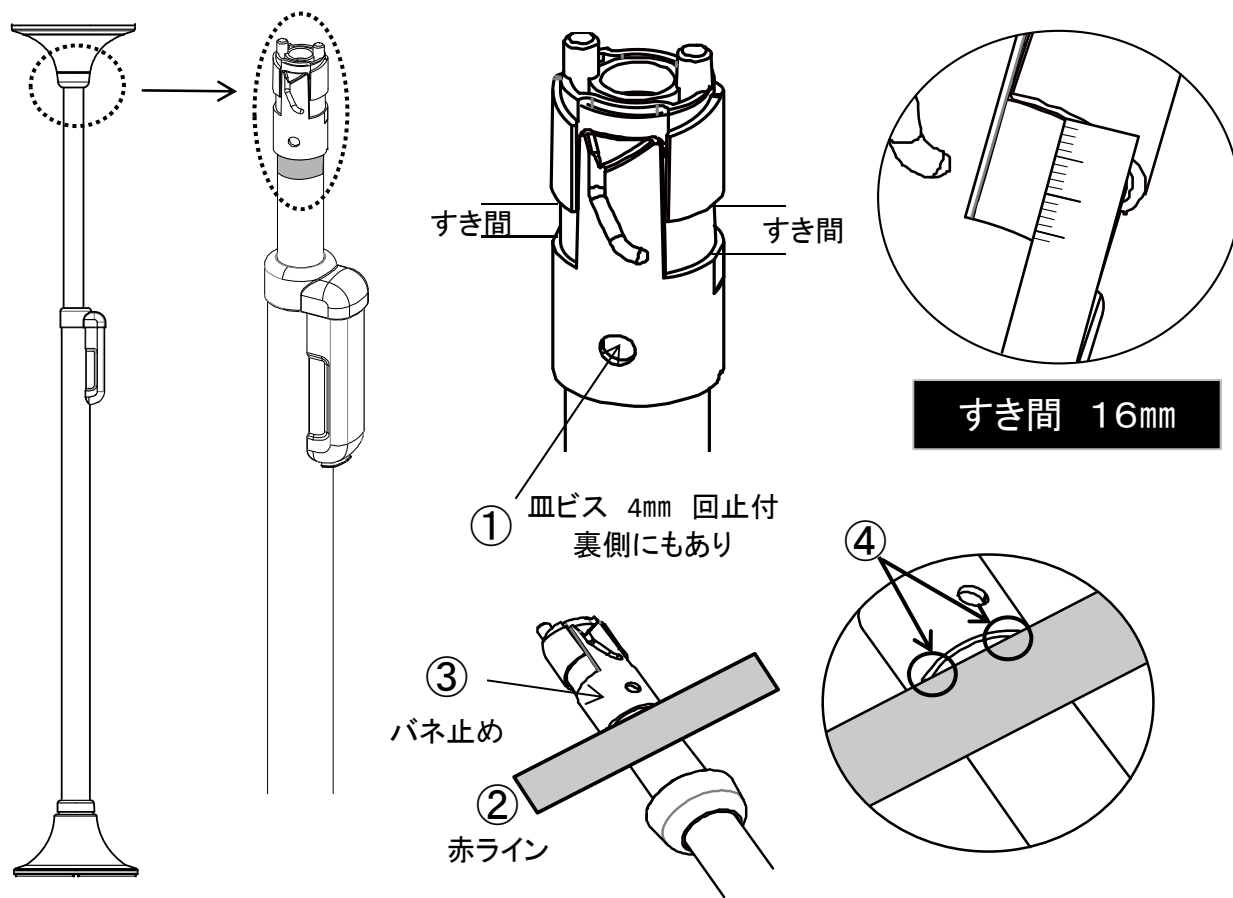


点検項目	点検方法	点検内容	判断基準
①滑り止め	目視	貼り位置の確認 劣化確認 汚れ、付着物は除去	大きくズれていないこと 傷、へたりのないこと 消耗品は早めに交換
②ナイロンナット M8	作業実施	ナイロンナットの締め確認 ロングソケットレンチ 13mm	空回りしないこと
		空回りする場合の対策(締めすぎ注意) 天井プレートのキャップボルトを六角レンチ5mmで緩め取り外し、②ナイロンナットをロングソケットレンチ13mm等で固定し、③皿キャップボルトを六角レンチ5mmで締め付固定する。 T型ベースに天井プレートを固定し完了(締めすぎ注意)。	
外観	目視	全体を目視する	変形していないこと 割れ等ないこと

バネ止め点検マニュアル

発行日 2016年12月1日

改訂日 2017年1月16日

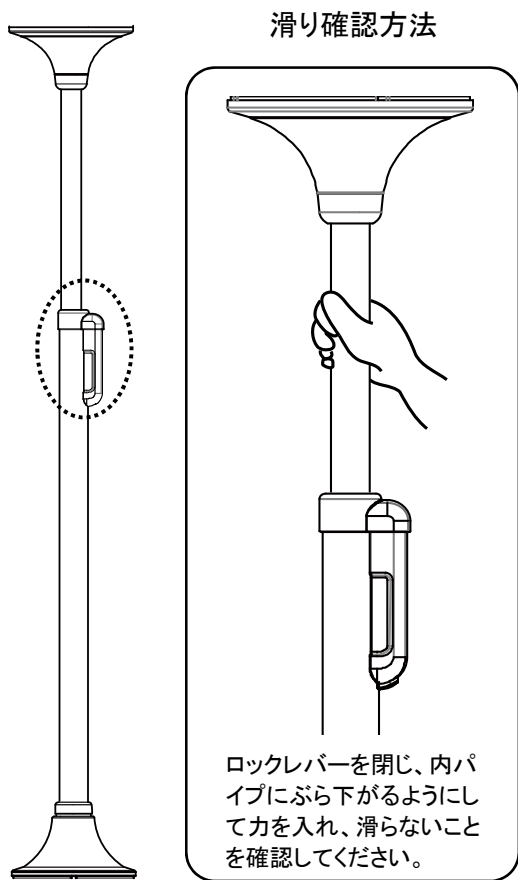


点検項目	点検方法	点検内容	判断基準
隙間	計測	すき間計測	16mm
		16mmでない場合の対策 ※修理依頼 不具合が発生している可能性があります。 ①の皿ビスには回止処理が施されていますので 普通の+ドライバーでは緩まない場合があります。	
外観	目視	全体を目視する 汚れ、埃、塵	変形していないこと 割れ等ないこと 汚れ、埃、塵等がないこと
赤ライン	目視	全体を目視する	破れ等ないこと
		赤ラインに破れ等がある場合の対策 赤ラインを③バネ止めの下端部に④接するように平行にし、パイプに巻き付けます。	

ロック点検マニュアル

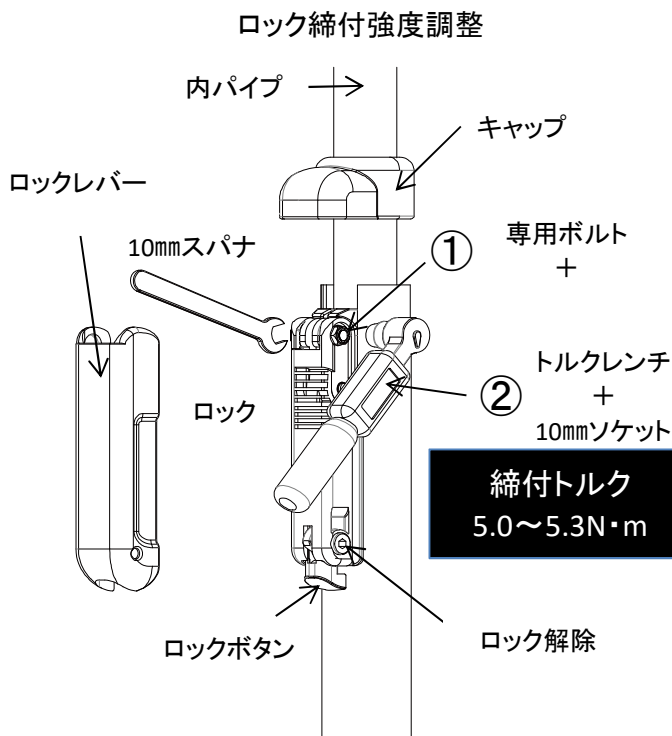
発行日 2016年12月1日

改訂日



滑り確認方法

ロックレバーを閉じ、内パイプにぶら下がるようにして力を入れ、滑らないことを確認してください。



ロック締付強度調整

締付トルク
5.0~5.3N・m

トルクレンチ・10mmソケット 六角レンチ 5mm

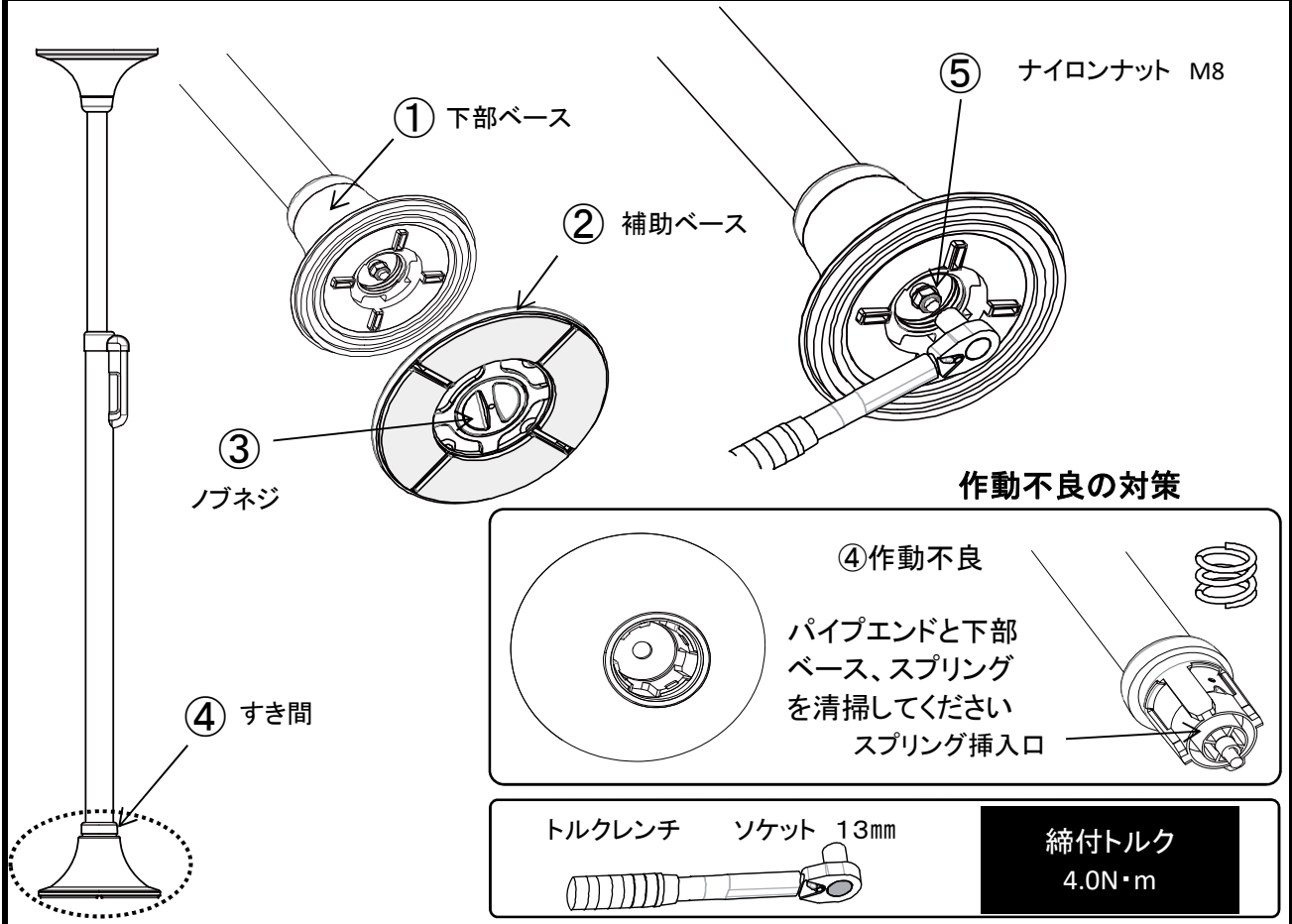
スパナ 10mm

点検項目	点検方法	点検内容	判断基準
内パイプ作動	作動操作	内パイプの上下作動確認 高さ制限ストッパー確認	スムーズに上がること 急激に下りないこと 2780mm以上上がらないこと
ロックレバー作動 ロックボタン作動	作動操作	ロックレバーの作動確認 ロックボタンの作動確認	90°に開閉が出来ること ロックボタンが締まること 5mmレンチを入れ回し解除
締付強度	作動操作	ロック状態で内パイプがズレないか確認 ズレる場合の対策 ロック状態でロックボルトを10mmスパナで固定し、UナットM6を増し締めする(締付トルク5.0~5.3N・m)。 ※指定トルクでズレる場合は修理依頼	内パイプがズレないこと ズレる→締付トルク調整
外観	目視	全体を目視する 汚れ、埃、塵	変形していないこと 割れ等ないこと 汚れ、埃、塵等がないこと

下部ベース点検マニュアル

発行日 2016年12月1日

改訂日

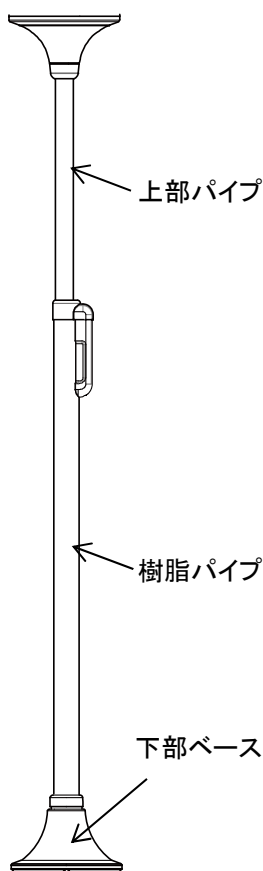


点検項目	点検方法	点検内容	判断基準
① 滑り止め ※耐水ベース含む	目視	貼り位置の確認 劣化確認 汚れ、付着物は除去	大きくズレていないこと 傷、へたりのないこと 消耗品は早めに交換
② 下部ベース	触診	グラつき ②補助ベースはグラつきます グラつく場合の対策 ③ノブネジを緩め補助ベースを外し、④ナイロンナットM8を増し締めする(締付トルク4.0N・m)。	固定できていること
④ すき間・上下作動	計測	すき間計測・上下作動確認 5mmでない、下げたときすき間がなくなる場合の対策 ⑤のナットを緩め下部ベースを外し、赤いエンドとベースの中を清掃してください。組立後再度、すき間と上下作動を確認してください。異常がある場合は修理依頼。	5mm
⑤ 補助ベース	触診	回らないことを確認	グラつくが回転しないこと 回転する→修理依頼
外観	目視	全体を目視する	変形していないこと 割れ等ないこと

耐水ベース使用時点検マニュアル

発行日 2016年12月1日

改訂日



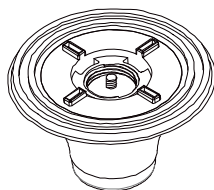
【注意】

上部パイプは錆びにくいステンレス鋼(SUS304)を採用していますが、塩害等の環境条件により錆びが発生することがあります。
レンタルバック後は、必ず清拭きをしてください。錆びが発生する可能性があります。

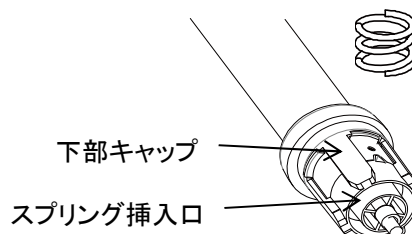
錆が発生した場合は、下記方法で取り除くことができます。取り除くことが出来ない場合は、ご連絡ください。

樹脂パイプ、下部ベースの洗浄

下部ベースを水洗いし、逆さまに置き水を抜いてください。その後、水分を拭き取り必ず乾かしてください。



下部キャップとスプリングを水洗いし、必ず水分を拭き取り必ず乾かしてください。



点検項目	点検方法	点検内容	判断基準
上部パイプ	目視 触診	全体を目視・触診する	変形していないこと 傷・割れ等ないこと 汚れ、錆びがないこと
		<p>汚れ、錆が発生した場合の対策</p> <p>汚れ：水拭き後、中性洗剤を使用し汚れを落とし、水拭き後、必ず乾いた布で水分を拭き取ってください。</p> <p>錆び：水拭き後、メラニフォーム等でこすり落とし、十分に水拭き後、必ず乾いた布で水分を拭き取ってください。落ちにくい場合は、市販のステンレス用クレンザーを使用してこすり落とし、十分に水拭き後、必ず乾いた布で水分を拭き取り乾かしてください。</p>	
下部キャップ、ベース 耐水ベース	目視 触診	全体を目視・触診する	変形していないこと 傷・割れ、汚れ等ないこと
		<p>水に掛かった場合の対策</p> <p>下部キャップ、ベースは上記参照、耐水ベースは水洗いし、必ず乾いた布で水分を拭き取り乾かしてください。</p>	